

おおおとこ 大男の話 じょう 〈上〉

1 ある ^{ところ}所に、体がとても大きい男がいました。この男は、
2 お母さんと一緒に ^{いっしょ}森 ^{もり}の中に住んでいました。大男のお母さん
3 は ^{まじょ}魔女¹で、怖い顔 ^{こわ} ^{かお}をしていました。

4 ある夜のことでした。魔女と大男が寝ていると、家の外
5 から ^{こえ}声が聞こえました。

6 「^と戸²を開けてください。戸を開けてください。お願いし
7 ます」

8 大男が起きて、戸を開けに行きました。戸の外には、2
9 人の女の人が、かわいい女の子 ^つを連れて立っていました。
10 1人言いました。

11 「私 ^{わたし}たちは森へ遊び ^{もり} ^{あそ}に来ましたが、道が分からなくなり
12 ました。この方は、この国の王女³ ^{おうじょ}さまです。疲 ^{つか}れていま
13 す。家の中に入れてください。お願いします」

14 家の中から魔女が出てきて、優しい声 ^{やさ} ^{こえ}で言いました。

15 「どうぞ、お入りください。汚 ^{きたな}いところですが、ゆっく
16 り休んでください」3人は中へ入って、休みました。

17 次の日 ^{つぎ}の朝、大男が起きると、2人の女の人 ^{とり}は黒い鳥に、
18 王女 ^{おうじょ}は白い鳥 ^{とり}に変わっていました。魔女 ^{まじょ}が魔法 ^{まほう}をかけたの
19 です。大男はとても悲 ^{かな}しくなりました。

20 それから、魔女は窓 ^{まど}を大きく開けて、3羽 ^わ ^{とり}の鳥 ^にを外へ逃 ^にが
21 しました⁵。3羽の鳥 ^わ ^{とり}は飛 ^とんでいきましたが、夕方 ^{ゆうがた}、白い鳥 ^{とり}だ
22 けが鳴 ^なき⁶ながら魔女 ^{まじょ}の家に帰 ^{かえ}ってきました。

23 大男はかわいそうに思って、白い鳥 ^{とり}を自分の部屋 ^{へや}に入れ

¹'heks'

²'deur'

³prinses

⁴Klassewoord voor vogels en konijnen.

⁵にかす 'vrijlaten'

⁶なく 'geluid maken (van dieren; loeien, zingen, huilen, enz.)'